

強さ5のB-array から得られる  $3^m$ -BFF design における  
3因子交互作用との別名関係について

海上保安大学校 栗田 正秀

§1. 序.

$3^m$ -部実施要因計画 ( $3^m$ -FFD) において, Srivastava & Chopra [13] は分解能  $V$  の釣合型  $(2,0)$  対称計画の共分散行列のトレースを求めた。彼らの結果の特別な場合として, Hoke [4,5] は2次模型に基く計画についての色なる結果を与える。三角型多次元部分釣合型 (TMDPB) アソシエーションスキームの条件を緩和した多次元関係とその行列環の性質を用いて, Kumada [6,7,9] は強さ4の均斉配列と分解能  $V$  の釣合型  $3^m$ -部実施要因計画 ( $3^m$ -BFFD) の関係, 分解能  $V$  の  $3^m$ -BFFD の情報行列の固有多項式, として与えられた処理組合せ数  $N$  と因子数  $m (=4,5)$  について,  $t_1$ -基準と  $\det$ -基準に関する最適計画を求めた。また釣合型3次模型での  $t_1$ -と  $\det$ -基準に関する最適計画, 分解能  $IV$  の  $3^m$ -BFFD の  $t_1$ -基準 (Shinokuma [10]) に関する最適計画を求

めてゐる ([6, 8]).

ここでは強正定の均斉配列から得られる計画について, Hedayat, Raktoe & Federer [3] によつて導入された別名行列のノルムについて考える。一般の  $n_1 \times n_2 \times \dots \times n_m$ -F.F.D., また分解能  $2l+1$  の  $n^m$ -B.F.F.D. の場合についての研究は Shinakuma [11, 12] によつてなされてゐる。

§ 3. 線形模型と均斉配列.

$(d_1, d_2, \dots, d_m)$  をある処理組合せ (ただし  $d_k (k=1, 2, \dots, m)$  は  $k$  番目の因子の水準を示し,  $0, 1, 2, \dots$  のいずれかをとる) とし,  $T$  を  $N$  個の処理組合せをもつ分解能  $V$  の  $n^m$ -F.F.D. とする。このときつぎのような  $T$  に基く線形模型を考える:

$$(2.1) \quad E[\mathbf{y}(T)] = E_T \boldsymbol{\theta}.$$

ただし  $\mathbf{y}(T)$  は  $T$  に基く  $N \times 1$  の観測値ベクトルで  $\text{Var}[\mathbf{y}(T)] = \sigma^2 I_N$ ,  $E_T$  は  $N \times V$  の計画行列,  $\boldsymbol{\theta}' = (\{\theta(\phi)\}; \{\theta(t^1)\}; \{\theta(t^2)\}; \{\theta(t^1 t^2)\}; \{\theta(t^2 t^3)\}; \{\theta(t^1 t^2 t^3)\}; \{\theta(t^1 t^2 t^3 t^4)\})$  である。ここで  $I_p$  は  $p \times p$  の単位行列,  $V (= 1 + 2m^2)$  は未知の要因効果の個数,  $\boldsymbol{\theta}$  は  $t_1 < t_2, t_3 \neq t_4$  である。模型 (2.1) の下で  $\boldsymbol{\theta}$  の BLUE は

$$(2.2) \quad \hat{\boldsymbol{\theta}} = M_T^{-1} E_T' \mathbf{y}(T),$$

で与えられる。ただし  $M_T (= E_T' E_T)$  は  $V \times V$  の情報行列である。

定義 2.1.  $\hat{\mathcal{G}}$  の共分散行列  $\text{Var}[\hat{\mathcal{G}}] = \sigma^2 M_T^{-1}$  が  $M$  個の因子の置換に関して不変であるとき,  $T$  は分解能  $V$  の  $3^M$ -BFFD と呼ばれる。

定義 2.2. 要素  $0, 1, 2$  をもつ  $N \times m$  の行列  $T$  の任意の  $k_1, k_2, \dots, k_t$  列からなるあべこの  $N \times t$  の部分行列  $T_{k_1, k_2, \dots, k_t}$  において,  $w_r(d_{k_1}, d_{k_2}, \dots, d_{k_t}) = i_r$  ( $r = 0, 1, 2$ ) である  $1 \times t$  のベクトルが  $T_{k_1, k_2, \dots, k_t}$  の行として各々  $\lambda_{i_0 i_1 i_2}$  回づつ現われるとき,  $T$  は強  $t$  本, 大  $t$  本  $N$ , 制約数  $M$ ,  $3$  水準, 指標集合  $\{\lambda_{i_0 i_1 i_2} \mid i_0 + i_1 + i_2 = t, i_0, i_1, i_2 \geq 0\}$  をもつ均斉配列 (簡単に  $BA[N, M, 3, t]$   $\{\lambda_{i_0 i_1 i_2}\}$  と記す) と呼ばれる。ただし  $w_r(d_1, d_2, \dots, d_k)$  はベクトル  $(d_1, d_2, \dots, d_k)$  における  $r$  の個数を示す。

この均斉配列の概念は Chakravarti [2] によつて導入された。

定理 2.1. 情報行列  $M_T$  が正則である仮定の下で,  $T$  が分解能  $V$  の  $3^M$ -BFFD であることと,  $T$  が  $BA[N, M, 3, 4]$   $\{\lambda_{i_0 i_1 i_2} \mid i_0 + i_1 + i_2 = 4\}$  であることは同値である。

$T \in BA[N, M, 3, 4]$   $\{\lambda_{i_0 i_1 i_2}\}$  とあるとき,  $M_T$  の逆乗は  $\gamma_{p_0 p_1 p_2}$  ( $p_0 + p_1 + p_2 = 4, p_0, p_1, p_2 \geq 0$ ) の一次積合で与えられる。ただし

$$(2.3) \quad \gamma_{p_0 p_1 p_2} = \sum \left\{ \frac{p_0!}{(i_0! i_1! i_2!)} \right\} \left\{ \frac{p_1!}{(i_1! i_2! i_3!)} \right\} \left\{ \frac{p_2!}{(i_2! i_3! i_4!)} \right\} \\ \cdot (-1)^{i_0} \delta_{0 i_4} \cdot (-2)^{i_1} \lambda_{i_0 + i_1 + i_2, i_1 + i_2 + i_3, i_2 + i_3 + i_4}$$

である。ここで  $\delta_{ij}$  は Kronecker's symbol である。

### §3. 多次元関係とその行列環.

Base & Srivastava[1]によつて導入されたMTPBアソシエーションスキームの3つの条件の内, 対称性の条件を緩和した多次元関係を要因効果の間につぎのように定義する:

定義3.1. 2つの要因効果  $\theta(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2)$  と  $\theta(u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)$  に対して, 多次元関係の指標  $\alpha_{ij}$  ( $i, j=1, 2$ ) が

$$(3.1) \quad \begin{cases} |\{t_1, \dots, t_a\} \cap \{u_1, \dots, u_b\}| = \min(a_1, b_1) - \alpha_{11}, \\ |\{t_1, \dots, t_a\} \cap \{u_1^2, \dots, u_{b_2}^2\}| = \min(a_1, b_2) - \alpha_{12}, \\ |\{t_1^2, \dots, t_{a_2}^2\} \cap \{u_1, \dots, u_b\}| = \min(a_2, b_1) - \alpha_{21}, \\ |\{t_1^2, \dots, t_{a_2}^2\} \cap \{u_1^2, \dots, u_{b_2}^2\}| = \min(a_2, b_2) - \alpha_{22} \end{cases}$$

を満たすとき,  $\theta(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2)$  は  $\theta(u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)$  と  $R(\underline{\alpha}; a, a_2, b, b_2)$  の関係にあると呼ばれる (簡単に  $\theta(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2) \xrightarrow{R(\underline{\alpha}; a, a_2, b, b_2)} \theta(u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)$  と記す). 是處し  $\underline{\alpha} = (\alpha_{11}, \alpha_{12}, \alpha_{21}, \alpha_{22})$  である.

[注]  $\theta(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2) \xrightarrow{R(\underline{\alpha}; a, a_2, b, b_2)} \theta(u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)$  であるとき,  $\theta(u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2) \xrightarrow{R(\tilde{\alpha}; a, a_2, b, b_2)} \theta(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2)$  である. 是處し  $\tilde{\alpha} = (\alpha_{21}, \alpha_{12}, \alpha_{11}, \alpha_{22})$  である. また  $\theta(t_1^{\varepsilon_1} \dots t_a^{\varepsilon_1})$  と  $\theta(u_1^{\varepsilon_2} \dots u_b^{\varepsilon_2})$  ( $\varepsilon_1, \varepsilon_2 = 1, 2$ ) の間に定義される多次元関係はTMDPBアソシエーションスキームと同等になる.

$\{\theta(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2)\}$  と  $\{\theta(u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)\}$  の集合の間に定義される多次元関係を示す行列  $A_{\underline{\alpha}}^{(a, a_2, b, b_2)} = \|a(t_1 \dots t_a, t_1^2 \dots t_{a_2}^2; u_1 \dots u_b, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)\|$  をつぎのように定義する:

$$(3.2) \quad a(t_1^1 \cdots t_{a_1}^1, t_1^2 \cdots t_{a_2}^2; u_1^1 \cdots u_{b_1}^1, u_1^2 \cdots u_{b_2}^2)_d \\ = \begin{cases} 1 & \text{もし } \theta(t_1^1 \cdots t_{a_1}^1, t_1^2 \cdots t_{a_2}^2) \xrightarrow{R(d; a_1, a_2, b_1, b_2)} \theta(u_1^1 \cdots u_{b_1}^1, u_1^2 \cdots u_{b_2}^2) \\ 0 & \text{その他。} \end{cases}$$

$V \times V$  の関係行列  $D_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  を

$$(3.3) \quad D_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & A_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

と定義する。またこの関係行列の一次結合によつて対称行列  $B_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  も定義出来る。

以下、2因子交互作用までの要因効果について考える ( $a_1, a_2, b_1, b_2 = 00, 10, 01, 20, 02, 11$ )。このとき  $A_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  はつぎのよう性質をもつ。2つは：

$$(3.4) \quad \sum_d A_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} = G_{n_{a_1, a_2} \times n_{b_1, b_2}},$$

$$(3.5) \quad A_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} \downarrow_{n_{b_1, b_2}} = n(d; a_1, a_2, b_1, b_2) \downarrow_{n_{a_1, a_2}},$$

$$(3.6) \quad A_p^{(a_1, a_2, c_1, c_2)} A_q^{(c_1, c_2, b_1, b_2)} = \sum_d \beta(a_1, a_2, b_1, b_2, d; c_1, c_2, p, q) A_d^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}.$$

ただし  $G_{p \times q}$ ,  $\downarrow_p$  はそれぞれ  $m^2$  の要素が1つある  $p \times q$  の行列,  $p \times 1$  のベクトルである。ここぞ

$$(3.7) \quad \left\{ \begin{array}{l} n_{a_1, a_2} = \binom{m}{a_1} \binom{m-a_1}{a_2}, \\ n(d; a_1, a_2, b_1, b_2) = \binom{a_1}{d_{11}^*} \binom{a_1-d_{11}^*}{d_{12}^*} \binom{a_2}{d_{21}^*} \binom{a_2-d_{21}^*}{d_{22}^*} \binom{m-a_1}{b_1-d_{11}^*} \binom{m-a_1-b_1+d_{11}^*}{b_2-d_{22}^*}, \\ \beta(a_1, a_2, b_1, b_2, d; c_1, c_2, p, q) \text{ は } a_1, a_2, b_1, b_2, c_1, c_2, d, p, q \text{ のための関数である (詳細は [6] を参照)。} \end{array} \right.$$

ただし  $d_{ij}^* = \min(a_i, b_j) - \alpha_{ij}$ ,  $\alpha_j^* = \alpha_{1j}^* + \alpha_{2j}^*$  ( $i, j = 1, 2$ ),  $a = a_1 + a_2$  である。

$D_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  の一次結合によつて、2つごのよ様な性質をもつ  $V \times V$  の行列  $D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  ( $\beta = 0, 1, 2$ ) と  $D_{f_{ij}}^{\#(u_1, u_2, v_1, v_2)}$  ( $i, j = 1, 2, 3, 4$ ) が定義出来る (詳細は [6] か [9] を参照) :

$$(3.8) \begin{cases} D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, c_1, c_2)} D_{\gamma}^{\#(d_1, d_2, b_1, b_2)} = \delta_{c_1, d_1} \delta_{c_2, d_2} \delta_{\beta\gamma} D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, b_1, b_2)}, \\ D_{f_{ik}}^{\#(u_1, u_2, w_1, w_2)} D_{f_{lj}}^{\#(s_1, s_2, v_1, v_2)} = \delta_{w_1, s_1} \delta_{w_2, s_2} \delta_{kl} D_{f_{ij}}^{\#(u_1, u_2, v_1, v_2)}, \\ D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, b_1, b_2)} D_{f_{ij}}^{\#(u_1, u_2, v_1, v_2)} = D_{f_{ij}}^{\#(u_1, u_2, v_1, v_2)} D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, b_1, b_2)} = 0_V. \end{cases}$$

ただし  $\beta, \gamma = 0, 1, 2$ ;  $i, j, k, l = 1, 2, 3, 4$ , 且して  $0_p$  は  $\mathbb{Z}$  の要素が 0 である  $p \times p$  の行列である。

$\mathcal{R}$  を積に関して閉じている 82 個の  $D_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$ , あるいは 49 個の  $B_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  によつて生成される多次元関係環とする。

### 定理 3.1.

$$(i) \quad \mathcal{R} = [D_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}] = \{ B_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} \} \\ = [D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, b_1, b_2)}, D_{f_{ij}}^{\#(u_1, u_2, v_1, v_2)}; \beta = 0, 1, 2; i, j = 1, 2, 3, 4].$$

$$(ii) \quad \mathcal{R} = \mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}_1 \oplus \mathcal{R}_2 \oplus \mathcal{R}_f.$$

ただし  $\mathcal{R}_{\beta} = [D_{\beta}^{\#(a_1, a_2, b_1, b_2)}]$  ( $\beta = 0, 1, 2$ ),  $\mathcal{R}_f = [D_{f_{ij}}^{\#(u_1, u_2, v_1, v_2)}]$  である。

(iii)  $\mathcal{R}_0, \mathcal{R}_1, \mathcal{R}_2, \mathcal{R}_f$  は各々重複度  $\phi_0 = 1$ ,  $\phi_1 = m(m-3)/2$ ,  $\phi_2 = \binom{m-1}{2}$ ,  $\phi_f = m-1$  をもつ  $6 \times 6$ ,  $3 \times 3$ ,  $1 \times 1$ ,  $6 \times 6$  の完全行列環と同形である。

## §4. 別名行列のノルム

(2.2) で与えられた  $\hat{\theta}$  は模型 (2.1) の下では  $\theta$  の不偏推定量になるが、模型

$$(4.1) \quad E[\hat{\theta}(T)] = E_T \theta + E_T^* \theta^*$$

の下では

$$(4.2) \quad E[\hat{\theta}] = \theta + A_T \theta^*$$

となる。ただし  $\theta^* = (\{\theta(t_5, t_6, t_7)\}; \{\theta(t_8, t_9, t_{10})\}; \{\theta(t_5, t_8, t_{10})\}; \{\theta(t_6, t_9, t_{10})\})$ ,  $A_T = M_T^{-1} E_T' E_T^*$  が別名行列と呼ばれる。ここで  $t_5 < t_6 < t_7$ ,  $t_8 < t_9$ ,  $t_8 \neq t_{10}$ ,  $t_9 \neq t_{10}$  である。そこで模型 (4.1) の下で、ある意味において良い計画を求める基準として別名行列のノルム  $\|A_T\| = \{tr(A_T' A_T)\}^{1/2}$  が考えられた (Hedayat, Raktoe & Federer [3])。

$T \in BA[N, m, 3, 5] \{ \lambda_{i_0, i_1, i_2} \mid i_0 + i_1 + i_2 = 5 \}$  とし,  $R_0, R_1, R_2, R_f$  に関する  $M_T$  の簡約表現を各  $K_0 = \| \kappa_0^{a_1 a_2, b_1 b_2} \|$  ( $6 \times 6$ ),  $K_1 = \| \kappa_1^{c_1 c_2, d_1 d_2} \|$  ( $3 \times 3$ ),  $K_2 = \| \kappa_2^{''} \|$  ( $1 \times 1$ ),  $K_f = \| \kappa_f^{a_1 a_2, b_1 b_2} \|$  ( $6 \times 6$ ) とする。ただし

$$\left\{ \begin{array}{l} \kappa_0^{00,00} = p_{(0000)}^{(00,00)}, \quad \kappa_0^{00, b_1 b_2} = \binom{m}{2}^{1/2} p_{(0000)}^{(00, b_1 b_2)}, \quad \kappa_0^{00, b_1' b_2'} = \left\{ \binom{m}{2} \right\}^{1/2} p_{(0000)}^{(00, b_1' b_2')}, \\ \kappa_0^{00, 11} = \left\{ 2 \binom{m}{2} \right\}^{1/2} p_{(0000)}^{(00, 11)}, \quad \kappa_0^{a_1 a_2, b_1 b_2} = p_{(0000)}^{(a_1 a_2, b_1 b_2)} + (m-1) p_{\underline{a}}^{(a_1 a_2, b_1 b_2)}, \\ \kappa_0^{a_1 a_2, b_1' b_2'} = \left\{ (m-1)/2 \right\}^{1/2} \left\{ 2 p_{(0000)}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} + (m-2) p_f^{(a_1 a_2, b_1 b_2)} \right\}, \quad \kappa_0^{a_1 a_2, 11} \\ = (m-1)^{1/2} \left\{ p_{\underline{1}_0}^{(a_1 a_2, 11)} + p_{\underline{1}_1}^{(a_1 a_2, 11)} + (m-2) p_{\underline{1}_2}^{(a_1 a_2, 11)} \right\}, \quad \kappa_0^{a_1 a_2', b_1' b_2'} = p_{(0000)}^{(a_1 a_2', b_1' b_2')} \\ + 2(m-2) p_{\underline{7}_1}^{(a_1 a_2', b_1' b_2')} + \binom{m-2}{2} p_{\underline{7}_2}^{(a_1 a_2', b_1' b_2')}, \quad \kappa_0^{a_1 a_2', 11} = 2^{1/2} \left\{ p_{(0000)}^{(a_1 a_2', 11)} \right\} \end{array} \right.$$

$$\begin{aligned}
 & + (m-2) (P_{\xi_1}^{(a_1 a_2', 11)} + P_{\xi_2}^{(a_1 a_2', 11)}) + \binom{m-2}{2} P_{\xi_3}^{(a_1 a_2', 11)} \}, \quad \kappa_0^{11,11} = P_{(0110)}^{(11,11)} \\
 & + P_{(1001)}^{(11,11)} + (m-2) \{ P_{(0111)}^{(11,11)} + P_{(1110)}^{(11,11)} + P_{(1011)}^{(11,11)} + P_{(1101)}^{(11,11)} \} + 2 \binom{m-2}{2} P_{(1111)}^{(11,11)} \\
 \kappa_1^{a_1 a_2, b_1' b_2'} & = P_{(0000)}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} - 2 P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} + P_{\xi_2}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')}, \quad \kappa_1^{a_1 a_2, 11} = 2^{1/2} \\
 & \times \{ P_{(0000)}^{(a_1 a_2, 11)} - P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, 11)} - P_{\xi_2}^{(a_1 a_2, 11)} + P_{\xi_3}^{(a_1 a_2, 11)} \}, \quad \kappa_1^{11,11} = P_{(0110)}^{(11,11)} + P_{(1001)}^{(11,11)} \\
 & - P_{(0111)}^{(11,11)} - P_{(1110)}^{(11,11)} - P_{(1011)}^{(11,11)} - P_{(1101)}^{(11,11)} + 2 P_{(1111)}^{(11,11)}, \quad \kappa_2^{11,11} = P_{(0110)}^{(11,11)} \\
 (4.3) \quad & - P_{(1001)}^{(11,11)} - P_{(0111)}^{(11,11)} - P_{(1100)}^{(11,11)} + P_{(1011)}^{(11,11)} + P_{(1101)}^{(11,11)}, \quad \kappa_{\xi_{11}}^{a_1 a_2, b_1' b_2'} = P_{(0000)}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} \\
 & - P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')}, \quad \kappa_{\xi_{12}}^{a_1 a_2, b_1' b_2'} = (m-2)^{1/2} (P_{(0000)}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} - P_{\xi_3}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')}), \\
 \kappa_{\xi_{13}}^{a_1 a_2, 11} & = (m/2)^{1/2} (P_{\xi_0}^{(a_1 a_2, 11)} - P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, 11)}), \quad \kappa_{\xi_{14}}^{a_1 a_2, 11} = \{ (m-2)/2 \}^{1/2} \\
 & \times \{ P_{\xi_0}^{(a_1 a_2, 11)} + P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, 11)} - 2 P_{\xi_2}^{(a_1 a_2, 11)} \}, \quad \kappa_{\xi_{22}}^{a_1 a_2, b_1' b_2'} = P_{(0000)}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} \\
 & + (m-4) P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')} - (m-3) P_{\xi_2}^{(a_1 a_2, b_1' b_2')}, \quad \kappa_{\xi_{23}}^{a_1 a_2, 11} = \{ m(m-2)/2 \}^{1/2} \\
 & \times (P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, 11)} - P_{\xi_2}^{(a_1 a_2, 11)}), \quad \kappa_{\xi_{24}}^{a_1 a_2, 11} = \{ (1/2) \}^{1/2} \{ 2 P_{(0000)}^{(a_1 a_2, 11)} + (m-7) \\
 & \times (P_{\xi_1}^{(a_1 a_2, 11)} + P_{\xi_2}^{(a_1 a_2, 11)}) - 2(m-3) P_{\xi_3}^{(a_1 a_2, 11)} \}, \quad \kappa_{\xi_{33}}^{11,11} = (1/2) \\
 & \times \{ 2 (P_{(0110)}^{(11,11)} - P_{(1011)}^{(11,11)}) + (m-2) (P_{(0111)}^{(11,11)} + P_{(1110)}^{(11,11)} - P_{(1011)}^{(11,11)} - P_{(1101)}^{(11,11)}) \}, \\
 \kappa_{\xi_{34}}^{11,11} & = [ \{ m(m-2) \}^{1/2} / 2 ] (P_{(0111)}^{(11,11)} - P_{(1110)}^{(11,11)}), \quad \kappa_{\xi_{42}}^{11,11} = (1/2) \\
 & \times \{ 2 (P_{(0110)}^{(11,11)} + P_{(1001)}^{(11,11)}) + (m-4) (P_{(0111)}^{(11,11)} + P_{(1110)}^{(11,11)} + P_{(1011)}^{(11,11)} + P_{(1101)}^{(11,11)}) \\
 & - 4(m-3) P_{(1111)}^{(11,11)} \}
 \end{aligned}$$

2 あり。ここ 2 番  $\xi \leq (a_1 a_2, b_1' b_2') = (10, 10), (10, 01), (01, 01)$  に  $\bar{\kappa}$   
 以 2  $\xi = (1000), (0100), (0001)$ ;  $(a_1 a_2, b_1' b_2') = (10, 20), (10, 02)$   
 $(01, 20), (01, 02)$  に  $\bar{\kappa}$  以 2  $\xi = (1000), (0100), (0010), (0001)$ ;  
 $a_1 a_2 = 10, 01$  に  $\bar{\kappa}$  以 2  $\xi_0 = (0100), (0001)$ ,  $\xi_1 = (1000), (0010)$ ,  
 $\xi_2 = (1100), (0011)$ ;  $(a_1' a_2', b_1' b_2') = (20, 20), (20, 02), (02, 02)$



$\tau_r = (r000), (0r00), (000r)$  (ただし  $r=1,2$ );  $a_1, a_2 = 20, 02$  に応じて  $\xi_1 = (0100), (0001), \xi_2 = (1000), (0010), \xi_3 = (1100), (0011)$  であり,  $p_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  は  $\theta(t_1^1 \dots t_{a_1}^1, t_1^2 \dots t_{a_2}^2) \xrightarrow{R(\underline{a}; a_1, a_2, b_1, b_2)}$   $\theta(u_1^1 \dots u_{b_1}^1, u_1^2 \dots u_{b_2}^2)$  であるとする.  $M_T$  の  $\theta(t_1^1 \dots t_{a_1}^1, t_1^2 \dots t_{a_2}^2) - \bar{\theta}$ ,  $\theta(u_1^1 \dots u_{b_1}^1, u_1^2 \dots u_{b_2}^2) - \bar{\theta}$  の要素である.

$p_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  ( $a_1, a_2, b_1, b_2 = 00, 10, 01, 20, 02, 11$ ) と  $\gamma_{p_0, p_1, p_2}$  ( $p_0 + p_1 + p_2 = 5$ ) の関係は

$$\begin{aligned}
 & p_{(0000)}^{(00,00)} = \gamma_{500} = N, \quad p_{(0000)}^{(00,10)} = p_{(0000)}^{(10,01)} = \gamma_{410}, \quad p_{(0000)}^{(00,01)} \\
 & = \gamma_{401}, \quad p_{(0000)}^{(00,20)} = p_{(1000)}^{(10,10)} = p_{(1000)}^{(01,11)} = p_{(0000)}^{(01,20)} = p_{(0000)}^{(20,02)} \\
 & = p_{(1001)}^{(11,11)} = \gamma_{320}, \quad p_{(0000)}^{(00,02)} = p_{(0001)}^{(01,01)} = \gamma_{302}, \quad p_{(0000)}^{(00,11)} = p_{(0100)}^{(10,01)} \\
 & = p_{(0000)}^{(10,02)} = p_{(0001)}^{(01,11)} = \gamma_{311}, \quad p_{(0000)}^{(10,10)} = (2N + \gamma_{401})/3, \quad p_{(0000)}^{(10,20)} \\
 & = p_{(0000)}^{(20,11)} = (2\gamma_{410} + \gamma_{311})/3, \quad p_{(1000)}^{(10,20)} = p_{(1000)}^{(20,11)} = \gamma_{230}, \quad p_{(1000)}^{(10,02)} \\
 & = p_{(0011)}^{(01,11)} = p_{(0001)}^{(02,11)} = \gamma_{212}, \quad p_{(0100)}^{(10,11)} = (2\gamma_{401} + \gamma_{302})/3, \\
 & p_{(1100)}^{(10,11)} = p_{(0010)}^{(01,20)} = p_{(0100)}^{(20,02)} = p_{(1011)}^{(11,11)} = p_{(1101)}^{(11,11)} = \gamma_{221}, \quad p_{(0000)}^{(01,01)} \\
 (4.4) \quad & = 2N - \gamma_{401}, \quad p_{(0000)}^{(01,02)} = 2\gamma_{401} - \gamma_{302}, \quad p_{(0001)}^{(01,02)} = \gamma_{203}, \quad p_{(0000)}^{(10,11)} \\
 & = p_{(0000)}^{(02,11)} = 2\gamma_{410} - \gamma_{311}, \quad p_{(0000)}^{(20,20)} = (4N + 4\gamma_{401} + \gamma_{302})/9, \\
 & p_{(1000)}^{(20,20)} = (2\gamma_{320} + \gamma_{221})/3, \quad p_{(2000)}^{(20,20)} = \gamma_{140}, \quad p_{(0200)}^{(20,02)} \\
 & = p_{(1111)}^{(11,11)} = \gamma_{122}, \quad p_{(0100)}^{(20,11)} = (2\gamma_{311} + \gamma_{212})/3, \quad p_{(1100)}^{(20,11)} = \gamma_{131}, \\
 & p_{(0000)}^{(02,02)} = 4N - 4\gamma_{401} + \gamma_{302}, \quad p_{(0001)}^{(02,02)} = 2\gamma_{302} - \gamma_{203}, \quad p_{(0002)}^{(02,01)} \\
 & = \gamma_{104}, \quad p_{(00010)}^{(02,11)} = 2\gamma_{311} - \gamma_{212}, \quad p_{(0011)}^{(02,11)} = \gamma_{113}, \quad p_{(0110)}^{(11,11)} \\
 & = (4N - \gamma_{302})/3, \quad p_{(0111)}^{(11,11)} = (2\gamma_{302} + \gamma_{203})/3, \quad p_{(1110)}^{(11,11)}
 \end{aligned}$$

$$L = 2\gamma_{320} - \gamma_{221}$$

2"5"3"4"3.  $\exists E p_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} = p_{\underline{a}}^{(b_1, b_2, a_1, a_2)}$  2"あ"3.

一方

$$(4.5) \quad E_T' E_T^* = \sum_{a_1, a_2} \sum_{b_1, b_2} \sum_{\underline{a}} p_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} H_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$$

2"あ"3.  $E_T$  は  $a_1, a_2 = 00, 10, 01, 20, 02, 11$ ;  $b_1, b_2 = 30, 03, 21,$

12,  $H_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  は  $V \times P\left(\frac{M}{3}\right)$  の行列 2"

$$(4.6) \quad H_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & A_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

2"あ"3.  $\exists p_{\underline{a}}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}$  ( $a_1, a_2 = 00, 10, 01, 20, 02, 11$ ;  $b_1, b_2 = 30, 03, 21, 12$ ) と  $\gamma_{p_0, p_1, p_2}$  ( $p_0 + p_1 + p_2 = 5$ ) の関係は

$$\begin{aligned} p_{\binom{00,30}{0000}}^{(00,30)} &= p_{\binom{10,21}{1000}}^{(10,21)} = p_{\binom{01,30}{0000}}^{(01,30)} = p_{\binom{20,12}{1000}}^{(20,12)} = p_{\binom{02,30}{0000}}^{(02,30)} = p_{\binom{11,21}{1001}}^{(11,21)} = \gamma_{230}, \\ p_{\binom{00,03}{0000}}^{(00,03)} &= \gamma_{203}, \quad p_{\binom{00,21}{0000}}^{(00,21)} = p_{\binom{10,12}{1000}}^{(10,12)} = p_{\binom{01,21}{0001}}^{(01,21)} = p_{\binom{20,03}{0000}}^{(20,03)} = p_{\binom{02,21}{10001}}^{(02,21)} \\ &= p_{\binom{11,12}{1001}}^{(11,12)} = \gamma_{221}, \quad p_{\binom{00,12}{0000}}^{(00,12)} = p_{\binom{10,03}{0000}}^{(10,03)} = p_{\binom{01,12}{0001}}^{(01,12)} = \gamma_{212}, \quad p_{\binom{10,30}{0000}}^{(10,30)} \\ &= p_{\binom{20,21}{1000}}^{(20,21)} = p_{\binom{11,30}{0000}}^{(11,30)} = (2\gamma_{320} + \gamma_{221})/3, \quad p_{\binom{10,30}{1000}}^{(10,30)} = p_{\binom{20,21}{2000}}^{(20,21)} \\ &= p_{\binom{11,30}{1000}}^{(11,30)} = \gamma_{140}, \quad p_{\binom{10,03}{0100}}^{(10,03)} = p_{\binom{01,12}{0011}}^{(01,12)} = p_{\binom{02,12}{0002}}^{(02,12)} = p_{\binom{11,03}{0001}}^{(11,03)} = \gamma_{113}, \\ p_{\binom{10,21}{0100}}^{(10,21)} &= p_{\binom{20,12}{0100}}^{(20,12)} = p_{\binom{11,21}{0101}}^{(11,21)} = (2\gamma_{311} + \gamma_{212})/3, \quad p_{\binom{10,21}{1100}}^{(10,21)} \\ &= p_{\binom{01,30}{0010}}^{(01,30)} = p_{\binom{20,12}{1100}}^{(20,12)} = p_{\binom{02,30}{0010}}^{(02,30)} = p_{\binom{11,21}{1011}}^{(11,21)} = p_{\binom{11,21}{1101}}^{(11,21)} = \gamma_{131}, \quad p_{\binom{10,12}{0100}}^{(10,12)} \\ &= (2\gamma_{302} + \gamma_{203})/3, \quad p_{\binom{10,12}{1100}}^{(10,12)} = p_{\binom{01,21}{0011}}^{(01,21)} = p_{\binom{20,03}{0100}}^{(20,03)} = p_{\binom{02,21}{0011}}^{(02,21)} \\ &= p_{\binom{11,12}{1011}}^{(11,12)} = p_{\binom{11,12}{1101}}^{(11,12)} = \gamma_{122}, \quad p_{\binom{01,03}{0000}}^{(01,03)} = 2\gamma_{302} - \gamma_{203}, \quad p_{\binom{10,03}{0001}}^{(10,03)} \\ &= \gamma_{102}, \quad p_{\binom{01,21}{0010}}^{(01,21)} = p_{\binom{02,21}{0010}}^{(02,21)} = p_{\binom{11,12}{1010}}^{(11,12)} = 2\gamma_{320} - \gamma_{221}, \quad p_{\binom{01,12}{0010}}^{(01,12)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (4.7) \quad &= p_{(0001)}^{(02,12)} = p_{(0000)}^{(11,03)} = 2\gamma_{311} - \gamma_{212}, \quad p_{(0000)}^{(20,20)} = (4\gamma_{410} \\
 &+ 4\gamma_{311} + \gamma_{212})/9, \quad p_{(1000)}^{(20,30)} = (2\gamma_{230} + \gamma_{131})/3, \quad p_{(2000)}^{(20,30)} \\
 &= \gamma_{050}, \quad p_{(0200)}^{(20,03)} = p_{(1000)}^{(20,12)} = p_{(0021)}^{(02,21)} = p_{(1111)}^{(11,12)} = \gamma_{023}, \\
 &p_{(0100)}^{(20,21)} = (4\gamma_{401} + 4\gamma_{302} + \gamma_{203})/9, \quad p_{(1100)}^{(20,21)} = p_{(0010)}^{(11,30)} \\
 &= (2\gamma_{221} + \gamma_{122})/3, \quad p_{(2100)}^{(20,21)} = p_{(1010)}^{(11,30)} = \gamma_{041}, \quad p_{(0200)}^{(20,12)} \\
 &= p_{(0111)}^{(11,21)} = (2\gamma_{212} + \gamma_{113})/3, \quad p_{(1200)}^{(20,12)} = p_{(0020)}^{(02,30)} = p_{(1111)}^{(11,21)} \\
 &= \gamma_{032}, \quad p_{(0000)}^{(02,03)} = 4\gamma_{401} - 4\gamma_{302} + \gamma_{203}, \quad p_{(0001)}^{(02,03)} = 2\gamma_{203} \\
 &- \gamma_{104}, \quad p_{(0002)}^{(02,03)} = \gamma_{005}, \quad p_{(0020)}^{(02,21)} = p_{(1100)}^{(11,12)} = 2\gamma_{221} - \gamma_{122}, \\
 &p_{(0010)}^{(02,12)} = 4\gamma_{410} - 4\gamma_{311} + \gamma_{212}, \quad p_{(1001)}^{(02,12)} = p_{(0100)}^{(11,03)} = 2\gamma_{212} \\
 &- \gamma_{113}, \quad p_{(0012)}^{(02,12)} = p_{(0101)}^{(11,03)} = \gamma_{014}, \quad p_{(0010)}^{(11,21)} = (4\gamma_{410} \\
 &- \gamma_{212})/3, \quad p_{(1110)}^{(11,21)} = 2\gamma_{270} - \gamma_{131}, \quad p_{(0110)}^{(11,12)} = (4\gamma_{401} \\
 &- \gamma_{203})/3, \quad p_{(0111)}^{(11,12)} = (2\gamma_{203} + \gamma_{104})/3
 \end{aligned}$$

2" と 2" と 4" 3.

(3.6), (4.6) より

$$\begin{aligned}
 (4.8) \quad &(E_T' E_T^*)(E_T' E_T^*)' \\
 &= \left( \sum_{a_1, a_2} \sum_{b_1, b_2} \sum_{\alpha} p_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} H_{\alpha}^{(a_1, a_2, c_1, c_2)} \right) \left( \sum_{d_1, d_2} \sum_{b_1, b_2} \sum_{\beta} p_{\beta}^{(b_1, b_2, d_1, d_2)} H_{\beta}^{(b_1, b_2, d_1, d_2)} \right)' \\
 &= \sum_{a_1, a_2} \sum_{b_1, b_2} \sum_{\alpha} r_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} D_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)}
 \end{aligned}$$

この2",  $(E_T' E_T^*)(E_T' E_T^*)' \in \mathcal{O}$  2" がある。  $E = E' \cup$

$$(4.9) \quad r_{\alpha}^{(a_1, a_2, b_1, b_2)} = \sum_{c_1, c_2} \sum_{\beta} \sum_{\gamma} \delta(a_1, a_2, b_1, b_2, \alpha; c_1, c_2, \beta, \gamma) p_{\beta}^{(a_1, a_2, c_1, c_2)} p_{\gamma}^{(c_1, c_2, b_1, b_2)}$$

2" がある。よって  $\sum A_T A_T' \in \mathcal{O}$  2" がある。

$\mathcal{O}_0, \mathcal{O}_1, \mathcal{O}_2, \mathcal{O}_4$  に関する  $(E_T' E_T^*)(E_T' E_T^*)'$  の既約表現を各

$\approx K_0^* = \| \kappa_0^{* a_1 a_2, b_1 b_2} \|$  ( $6 \times 6$ ),  $K_1^* = \| \kappa_1^{* c_1 c_2, d_1 d_2} \|$  ( $3 \times 3$ ),  $K_2^*$   
 $= \| \kappa_2^{* u, v} \|$  ( $1 \times 1$ ),  $K_f^* = \| \kappa_{fij}^{* u, v, w, x, y, z} \|$  ( $6 \times 6$ ) とする。ただし  
 $\kappa_p^{* \dots, \dots}$ ,  $\kappa_{fij}^{* \dots, \dots}$  は (4, 3) における  $P_{\alpha}^{(\dots, \dots)}$  を  $\gamma_{\alpha}^{(\dots, \dots)}$  に置き換えた  
 ためのものである。

定理 4.1.  $BA[N, m, 3, 5] \{ \lambda_{i_1 i_2 i_3} \}$  から得られる計画  $T$  に  
 対し  $\det(M_T) \neq 0$  の下で,  
 (4.10)  $\| A_T \|^2 = \phi_0 \times \text{tr}(K_0^{-1} K_0^* K_0^{-1}) + \phi_1 \times \text{tr}(K_1^{-1} K_1^* K_1^{-1})$   
 $+ \phi_2 \times \text{tr}(K_2^{-1} K_2^* K_2^{-1}) + \phi_f \times \text{tr}(K_f^{-1} K_f^* K_f^{-1})$   
 である。

#### REFERENCES

- [1] Bose, R.C. and Srivastava, J.N. (1964). Multidimensional partially balanced designs and their analysis, with applications to partially balanced factorial fractions. *Sankhyā* (A) 26 145-168.
- [2] Chakravarti, I.M. (1956). Fractional replication in asymmetrical factorial designs and partially balanced arrays. *Sankhyā* 17 143-164.
- [3] Hedayat, A., Raktoc, B.L. and Federer, W.T. (1974). On a measure of aliasing due to fitting an incomplete model. *Ann. Statist.* 2 650-660.
- [4] Hoke, A.T. (1974). Economical second-order designs based on irregular fractions of the  $3^n$  factorial. *Technometrics* 16 375-384.
- [5] Hoke, A.T. (1975). The characteristic polynomial of the information matrix for second-order models. *Ann. Statist.* 3 780-786.
- [6] Kuwada, M. (1979a). Optimal balanced fractional  $3^m$  factorial designs

- of resolution V and balanced third-order designs. Hiroshima Math. J. 9 347-450.
- [7] Kuwada, M. (1979b). Balanced arrays of strength 4 and balanced fractional  $3^m$  factorial designs. J. Statist. Planning Inf. 3 347-360.
- [8] Kuwada, M. (1979c). Optimal balanced fractional  $3^m$  factorial designs of resolution IV. Submitted for publication.
- [9] Kuwada, M. Characteristic polynomials of the information matrices of balanced fractional  $3^m$  factorial designs of resolution V. (to appear in) J. Statist. Planning Inf..
- [10] Shirakura, T. (1976a). Balanced fractional  $2^m$  factorial designs of even resolution obtained from balanced arrays of strength  $2\ell$  with index  $\mu_\ell=0$ . Ann. Statist. 4 723-735.
- [11] Shirakura, T. (1976b). A note on the norm of alias matrices in fractional replication. Austral. J. Statist. 18 158-160.
- [12] Shirakura, T. (1979). On the norm of alias matrices in balanced fractional  $2^m$  factorial designs of resolution  $2\ell+1$ . J. Statist. Planning Inf. 3 337-345.
- [13] Srivastava, J.N. and Chopra, D.V. (1973). Balanced fractional factorial designs of resolution V for  $3^m$  series. Bull Intern. Statist. Inst. 39 271-276.